

2 ケータイモラルキャラバン隊 開催結果と評価

本章では、実行委員会の開催状況及び全 6 回の開催概要と配布アンケートの結果をもとに、本事業に関する評価を掲載する。

2.1 第 1 回実行委員会

ケータイモラルキャラバン隊実行委員会では、事業の企画・運営、事業終了後の評価に関して助言を行う機関として設置された。

第 1 回実行委員会では、企画内容の説明、開催候補地の選定について意見交換が行われ、事業評価にあたるアンケートの内容及び実施手法についても話し合われた。

2.1.1 開催概要

開催日時：平成 23 年 10 月 17 日（月）17 時～19 時

開催場所：財団法人マルチメディア振興センター 3F 大会議室

2.1.1.1 議事次第

1. 実行委員長挨拶 （社）日本 PTA 全国協議会 顧問 曾我邦彦様
2. 企画内容・実施候補地について
3. 意見交換
4. その他

<配布資料>

資料 1. 「ケータイモラルキャラバン隊 実行委員会」開催要綱

資料 2. 「ケータイモラルキャラバン隊 実行委員会」構成員名簿

資料 3. ケータイモラルキャラバン隊事業について

資料 4. シンポジウムチラシ（案）

資料 5. アンケート（案）

2.1.1.2 ケータイモラルキャラバン隊実行委員会構成員

委員長： 曾我邦彦 社団法人日本 PTA 全国協議会 顧問

副委員長：尾花紀子 ネット教育アナリスト

委員： 吉岡良平 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
事務局

委員： 石原友信 安心ネットづくり促進協議会 事務局 事務局次長兼企画部長

委員： 植田威 岩崎学園 理事 経営企画部長

委員： 齋藤長行 青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター 客員研究員
<オブザーバー>

野村哲也 文部科学省 スポーツ・青少年局参事官（青少年健全育成）付推進係
<事務局>

株式会社メディア開発綜研 戸口、山内、種市、西川

2.1.2 第 1 回実行委員会議事内容

2.1.2.1 開催場所について

- ・ 全国偏りがなく 6 箇所で開催であるが、地域によって携帯電話所持について濃淡があるため、基本的には携帯の所持について反対の県で事業を行いたいと考えている。
- ・ 地域との連携については自治体などがシンポジウムを行うと集客的には難しく、やはり PTA と連携する方が集客面で見込めるだろう。
- ・ 文科省に理解していただきたいのは、人数よりもどこで開催するかの意義を大事にしたいという点で、文科省の気持ちを伝えたい地域でシンポジウムの開催をしたい。今まで東北、北海道は本当に啓発事業を行っていない。

2.1.2.2 開催方法について

- ・ 様々な形式で行うということだが、ネットで中継するのはどうか。
- ・ タウンミーティング形式は参加者から意見を引き出すこともできるので、面白いかもしれない。
- ・ ワークショップ形式でファシリテーターを入れた展開も考えている。
- ・ 2000 人程度の聴講人数という仕様があるため、様々な形式で実施すると、相当厳しいかもしれないが、上手く調整できればいい結果になる。

2.1.2.3 アンケート・評価・内容について

- ・ PTA の事情を聞くと、尚更 PTA の方々の最後のアンケートをどう作るのか、どう分析・評価するのか、非常に難しいと感じている。
- ・ アンケートの細かい部分についてだが、「ふつう」の選択肢がある 5 件法の設問があるが、「ふつう」は「どちらともいえない」に変更している。しかし、5 件法にすると「良い」「悪い」が結果として出にくくなってしまうので、4 件法が好ましいのではないか。
- ・ キャラバン隊を受ける前と後でアンケートを行うということであれば、回答用紙は別にすべきだと思う。
- ・ セミナー形式、タウンミーティング、パネルディスカッション、ワークショップと開催形式が違うので、それぞれの要素が入った聞き方のアンケートを用意する必要があるだ

ろう。

- 情報機器の選択肢の中に **Music** プレイヤーも入れておくべきだ。ダウンロードするので当たり前だが、自分の持っている機器がネットに繋がることを知らない親もいる。アンケートの選択肢で、これも繋がるのかと知ってもらうことにもなる。

2.1.2.4 その他

- 実行委員会は2回以上開催することになっている。次回は6開催終了後、報告書内容について、本事業の評価と、次年度への課題について議論する。

2.2 第1回開催

2.2.1 開催概要

タイトル：文部科学省委託事業 新潟県小中学校 PTA 連合会「ケータイモラルキャラバン隊」

開催日時：平成23年11月12日（土）13時30分～16時（開場13時）

開催場所：新潟県三条市 燕三条地場産センター リサーチコア 7F マルチメディアホール

定員：300名

開催形式：トークセッション

主催：株式会社メディア開発総研

共催：文部科学省 新潟県小中学校 PTA 連合会

後援：新潟県教育委員会

協力：安心ネットづくり促進協議会

2.2.2 プログラム

図 2-1 開催スケジュール

時間	場所・内容	登壇者	
13:30	<開会の挨拶>	新潟県小中学校PTA連合会 会長	安藤正之様
13:35	<施策説明> ケータイモラル、情報等に関する小学校、中学校での取り組み	文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長 文部科学省 生涯学習政策局 参事官(学習情報政策担当)付 専門官	勝山浩司様 太田知啓様
13:55	ケータイ世界の子どもたち～子どもとネット・ケータイの最新事情～	千葉大学 教育学部 教授	藤川大祐様
14:30	休憩 10分間		
14:40	<トークセッション> あなたは、子どものケータイにどのように向き合いますか？ ～デジタル社会における家庭教育の悩みを参加者と共有し、一緒に考えます～	(社)日本PTA全国協議会 顧問 千葉大学 教育学部 教授 安心ネットづくり促進協議会 事務局次長 兼 企画部長	曾我邦彦様 藤川大祐様 石原友信様
15:40	<総括>	(社)日本PTA全国協議会 顧問	曾我邦彦様
15:55	<閉会の挨拶>	新潟県小中学校PTA連合会 監事	鏡十代栄様

16:00 終了

2.2.3 講演者プロフィール

講演者



藤川大祐 千葉大学教育学部教授

メディアリテラシーをはじめ多様な教科・領域で、新しい授業実践や教材の開発に取り組む。文部科学省「ネット安全安心全国推進会議」委員をはじめ、総務省、警察庁等で青少年育成に関わる会議の委員をつとめる。安心ネットづくり促進協議会 コミュニティサイト検証作業部会主査。著書『学校・家庭でできるメディアリテラシー教育』（金子書房）他。

トークセッションコーディネーター



曾我邦彦 (社)日本PTA全国協議会 顧問(前会長)

(株)童謡 代表取締役、(有)ソガクリエイト代表取締役。1980年日本大学大学院理工学研究科(修士)卒業、同年(有)大庭音楽事務所入社。1994年山西小学校PTA会長以降、西原村PTA連絡協議会会長、阿蘇郡PTA連合会会長、熊本県PTA連合会理事・会長、(財)熊本県PTA災害見舞金安全会理事長、NPO法人日本国際童謡館理事長等々を歴任。現在は現職の他、省庁の多くの審議会、検討会等の委員を歴任。

2.2.4 シンポジウム概要

2.2.4.1 文部科学省施策説明「ケータイモラル、情報等に関する小学校、中学校での取り組み」

登壇者：文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長 勝山浩司

文部科学省 生涯学習政策局 参事官(学習情報政策担当)付 専門官 太田知啓

<講演内容>

1.子どもの携帯電話等の実態把握について

子どもの携帯電話の学年別所持率、使用状況、学習への影響等についてデータを紹介。

2.子どもや保護者への啓発

子ども向け及び親子のルールづくりに係るリーフレットの紹介。青少年インターネット環境整備法の普及啓発状況についての説明。

3.学校での携帯電話の取扱い

小中学校への原則持ち込み禁止等、指針についての説明。

4.ネット上のいじめへの対応

「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアルの説明。

5.情報モラル教育の推進

新学習指導要領の総則において、情報モラルを身に着けることを規定したことの説明。

6.平成 24 年度概算要求

青少年を有害環境から守るための取組の推進について、および本事業の継続についての説明。

図 2-2 文部科学省の取組資料

文部科学省委託事業「ケータイモラルキャラバン隊」

子どもの携帯電話をめぐる問題に関する文部科学省の取組

1. 実態の把握

- 子どもの携帯電話の使用状況の把握**
平成22年度全国学力・学習状況調査によると、小6の約30%、中3の約60%が携帯電話を持っている。また、小6の約10%、中3の約32%が通話やメールを毎日している。
- 子どもの携帯電話等の利用に関する調査**
子どもたちの携帯電話の利用実態や携帯電話に対する意識等を把握するため、全国の小・中・高2とその保護者及び学校を対象とした調査を平成20年度に実施。(中3の携帯電話所有者の約20%がメールを受信1日50通以上)
- いじめに関する調査を踏んだ実態把握**
毎年実施している「児童生活の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、平成18年度分の調査より、調査項目の見直しを行い、「いじめの態様」に、「パソコンや携帯電話等で嫌なことをされる。」という項目を追加。(小・中・高・特別支援学校において、平成22年度は2,924件 ※総学習、芸術、体育等の数字を含まない)
- 学校裏サイト等の実態把握**
青少年が利用する非公式サイト・匿名掲示板等に関する実情調査を平成19年度に実施。全国で約38,000の非公式サイト(いわゆる学校裏サイト)が確認できた。そのうち、約2,000の非公式サイトの内容を確認したところ、誹謗中傷の言葉が約50%、いじめに関する言葉が約37%、暴力誘発の言葉が約27%含まれていた。
- 青少年が利用するコミュニティサイトの実態把握**
青少年が利用するコミュニティサイトに関する実情調査を平成21年度に実施。調査期間中約11万件の投稿を確認。うち注意を要する投稿、問題のある投稿は6,158件と全体の約6%。投稿者の約割は女性であり、投稿サイト種別ではプロフィールサイト(プロフィール)が全体の約53%を占め、掲示板は約39%であった。注意を要する投稿、問題のある投稿の内訳は、個人情報掲載が約60%、次に不適切行為の言及が約21%となっている。この調査より、掲示板型のサイトからプロフィールサイトの移行、監視が徹底されていないサイトがある、特定のサイトに特定の書き込み(自殺・自傷など)をする傾向がみられた。

2. 子どもや保護者への啓発

- 子ども向け及び親子のルールづくりに係るリーフレットの作成・配布**
平成22年2月17日、携帯電話のインターネット利用に際しての留意点やトラブル・犯罪被害の事例、その対処方法のアドバイスなどを盛り込んだリーフレット「ちょっと待って、ケータイを正しく」を作成し、全国の小学6年生約120万人全員に配布。また携帯電話利用に係る親子のルールづくり等に関するリーフレット「ちょっと待って」はじめのケータイも作成し、PTA団体・都道府県教育委員会等に対して配布。現在でも文部科学省HPからダウンロード可能。
- ケータイモラルキャラバン隊の結成**
インターネット上のマナーや家庭でのルールづくりの重要性を周知するための有識者等によるキャラバン隊を結成し、全国(6ヶ所)で保護者等を対象とした学習・参加型のタウンミーティングやワークショップなどを平成23年度より開催。

- 青少年インターネット環境整備法の普及啓発**
平成21年2月10日に、内閣府、警察庁、総務省等と共同で、青少年インターネット環境整備法の4月施行とフィルタリングの普及促進のため、啓発活動に取り組むよう文書で依頼。平成23年3月23日に、「青少年が利用する携帯電話へのフィルタリングの普及について(協力依頼)」通知を教育委員会等に発出。
- 「e-ネットキャラバン」の実施**
総務省、文部科学省及び通信関係団体等が連携し、子どもたちのインターネットの安心・安全な利用に向けて、保護者、教職員及び児童生徒を対象とした啓発講座を実施。

3. 学校での携帯電話の取扱い

- 携帯電話をめぐり問題への取組の徹底**
携帯電話の学校への持ち込みに関する調査の結果を踏まえて、小中学校への原則持ち込み禁止、高等学校の校内での使用制限等の指針を示した「学校における携帯電話の取扱い等について(通知)」を平成21年1月30日に発出。

4. ネット上のいじめへの対応

- 「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集(学校・教員向け)の作成・配付**
「ネット上のいじめ」を発見した場合の対応の手順や指導の在り方、家庭との連携等について、マニュアル・事例集を平成20年11月12日に作成し都道府県教育委員会等へ配付。
- 学校ネットリテラシーに関する調査研究**
ネットリテラシーの効率的・効果的な実施方法や、継続的な実施の在り方等について調査研究を平成22年度から実施。

5. 情報モラル教育の推進

- 新学習指導要領等の実施**
小中学校及び高等学校の新学習指導要領の「総則」において、各教科等の指導に当たっては、児童・生徒が「情報モラルを身に付け」ことを規定。小中学校については平成21年4月から、高等学校については平成22年4月から先行実施。また、教育の情報化に関する総合的な推進方策「教育の情報化ビジョン」を平成23年4月28日に策定。このなかで、情報モラル教育の重要性について明記。
- 遺法・有害情報と適切に対応する能力の育成を含む情報モラル教育を推進**
◆平成18年度に情報モラル指導モデルカリキュラムを作成。
◆平成19年度に情報モラル指導ポータルサイトを構築。
◆平成22年度に国立教育政策研究所において、小中学校教員向けの指導資料「情報モラル教育実践ガイド」を作成。
◆平成22年度から、独立行政法人教員研修センターにおいて、情報モラル教育に関する指導者研修を実施。

6. 平成24年度概算要求

- 青少年を有害環境から守るための取組の推進**
(24年度概算額 60百万円 (23年度算額 101百万円))
フィルタリングの普及啓発やケータイモラルキャラバン隊については継続。インターネットにつながる新たな機器への対応や緊急時に有効なインターネットの活用方法など青少年が研修するとともに、課題や対応法も含めて話し合い、その結果を家族や友人に対して発信する事業「青少年安心ネット・ワークショップ」を新規要求。また、HPよりダウンロードできる有害情報意識啓発動画の作成も要求。(地域の実情に応じた取組支援の委託事業も廃止)

<講演風景>



2.2.4.2 講演セミナー「ケータイ世界の子どもたち～子どもとネット・ケータイの最新事情～

登壇者：千葉大学 教育学部 教授 藤川大祐

<講演内容>

- ・日本の子どものメディア接触状況
- ・ケータイ依存とストレスや生活一同調圧力がストレスにつながる恐れ
- ・ネットトラブルの事例と対応について
- ・出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する被害児童数等の対比
- ・各関係者の主な取り組み
- ・残されている課題
- ・スマートフォンのフィルタリング
- ・メディアリテラシー教育について
- ・携帯電話に関する啓発教材
- ・携帯電話とつきあうために

<講演風景>



2.2.4.3 トークセッション「あなたは、子どものケータイにどのように向き合いますか？ ～デジタル社会における家庭教育の悩みを参加者と共有し、一緒に考えます～

登壇者：千葉大学 教育学部 教授 藤川大祐

文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長 勝山浩司

文部科学省 生涯学習政策局 参事官（学習情報政策担当）付 専門官 太田知啓

安心ネットづくり促進協議会 事務局次長兼企画部長 石原友信

コーディネーター：(社) 日本PTA全国協議会 顧問 曾我邦彦

<トークセッション内容>

- ・教育のデジタル化についてのメリット、デメリット
- ・携帯電話のフィルタリングとPCのフィルタリングについて
- ・家庭でのルール作りについて
- ・学校での情報モラル教育について
- ・学習指導要綱の改訂内容について
- ・携帯電話のフィルタリングの重要性について
- ・携帯電話の機能制限について
- ・全国の携帯電話の普及状況について
- ・携帯電話、PCの利用と人格形成の関わりについて
- ・いいネット社会を作るためにネット企業との対話が重要

<トークセッション風景>



2.2.5 第1回開催結果と評価

2.2.5.1 アンケート結果より

■ 講演について

アンケート回答者 160 人に対し 3 つの講演およびディスカッションについての感想を聞いた。

文部科学省の講演について「とてもわかりやすい」が 45 人 (28.1%)、「わかりやすい」が 77 人 (48.1%) と 7 割以上の参加者がわかりやすかったと回答している。また「ややわかりにくい」9 人 (5.6%)「わかりにくい」2 人 (1.3%) だった。

藤川氏の講演については「とてもわかりやすい」が最も多く 65 人 (40.6%)、「わかりやすい」62 人 (38.8%) と 8 割近くの参加者が分かりやすいと回答している。否定的な意見は 7 人 (4.4%) と低く、満足度の高い講演だったことが分かる。

会場トークセッションについては「とてもわかりやすい」44 人 (27.5%)、「わかりやすい」71 人 (44.4%) だった。「わかりにくい」1 人 (0.6%)「ややわかりにくい」6 人 (3.8%) とこちらも低かった。

3 つの講演および会場トークセッションは大部分の参加者にとってわかりやすいものであったと言える。

図 2-3 文部科学省の講演 (N=160/新潟)

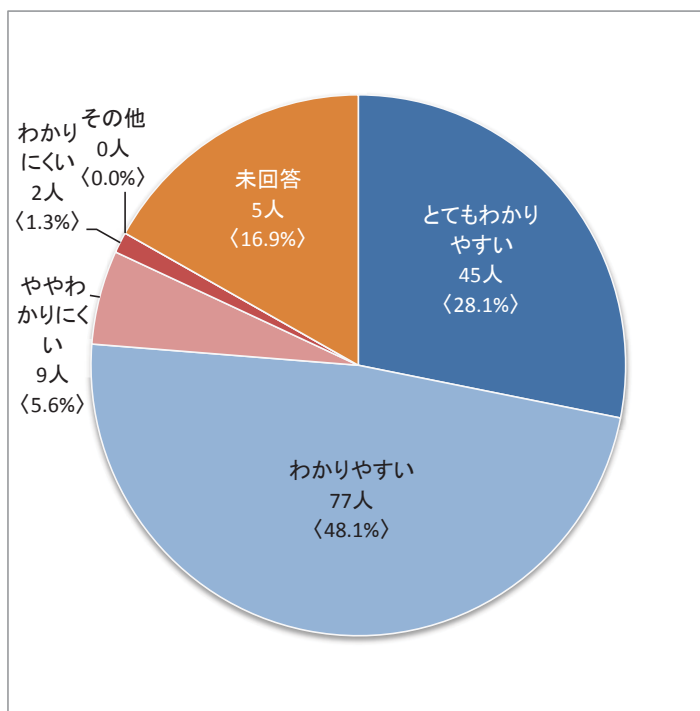


図 2-4 藤川氏の講演について (N=160/新潟)

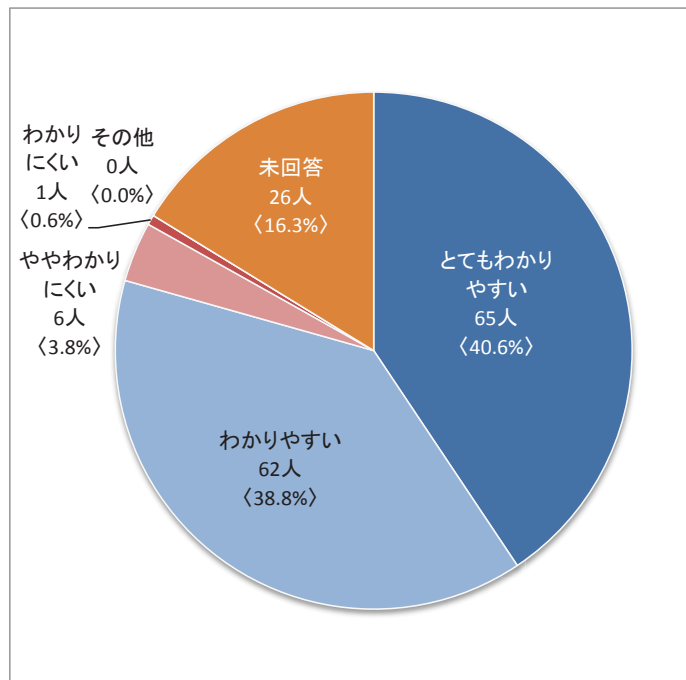
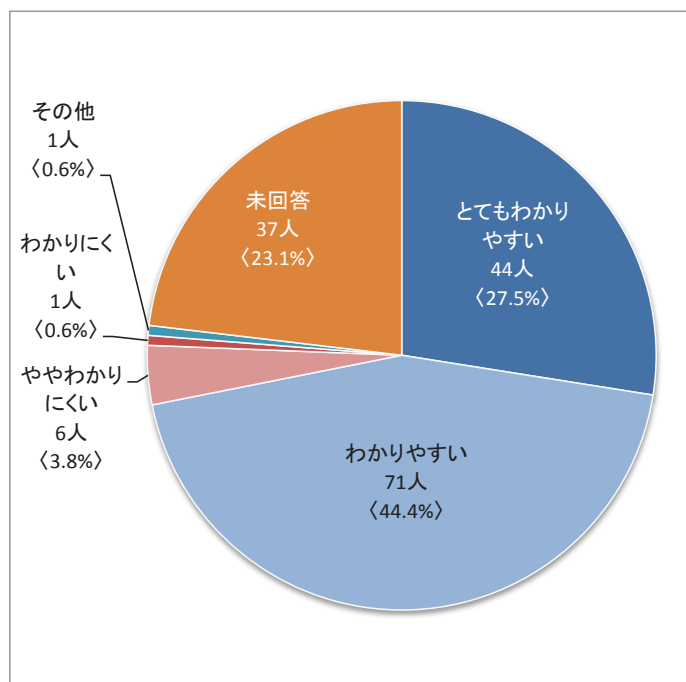


図 2-5 会場トークセッションについて (N=160/新潟)

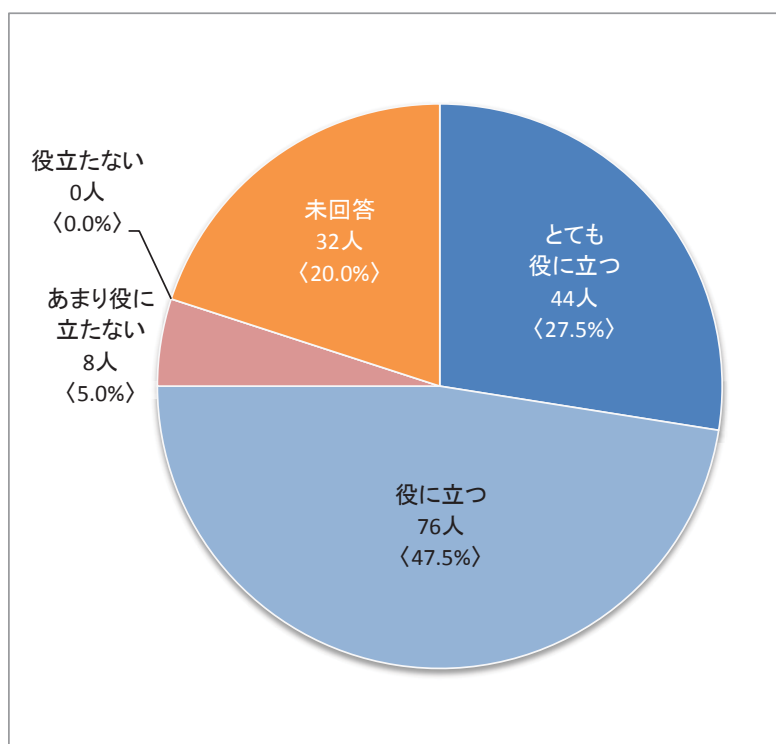


■ 講演会の内容は今後に役立つか

今回の内容が子育てや教育・指導ほか、今後の活動や取り組みに役立つかを聞いたところ、「とても役に立つ」と回答した参加者は44人（27.5%）。「役に立つ」が76人（47.5%）だった。否定的な意見は「あまり役に立たない」8人（5.0%）のみであり、シンポジウムが役に立つと感じられた参加者が大半であったことが分かる。

加えて、どんな内容が役に立つのか筆記式で記入してもらったところ、「携帯電話やスマートフォンの最新の情報を得られた」「子どもとの家庭内でのコミュニケーションの重要性が分かった」「フィルタリングサービスの有効性が分かった」「ケータイモラル教育など親がもっと勉強しなければならないこと」などの意見が寄せられた。また現在は子どもが幼いため携帯電話を持たせるかという問題に直面していない参加者からは「今後持たせるかどうかとなったときの参考になった」とこれからは備える上でも参考になったという意見も述べられている。

図 2-6 講演会（および会場トークセッション）の内容は役立つか（N=160／新潟）

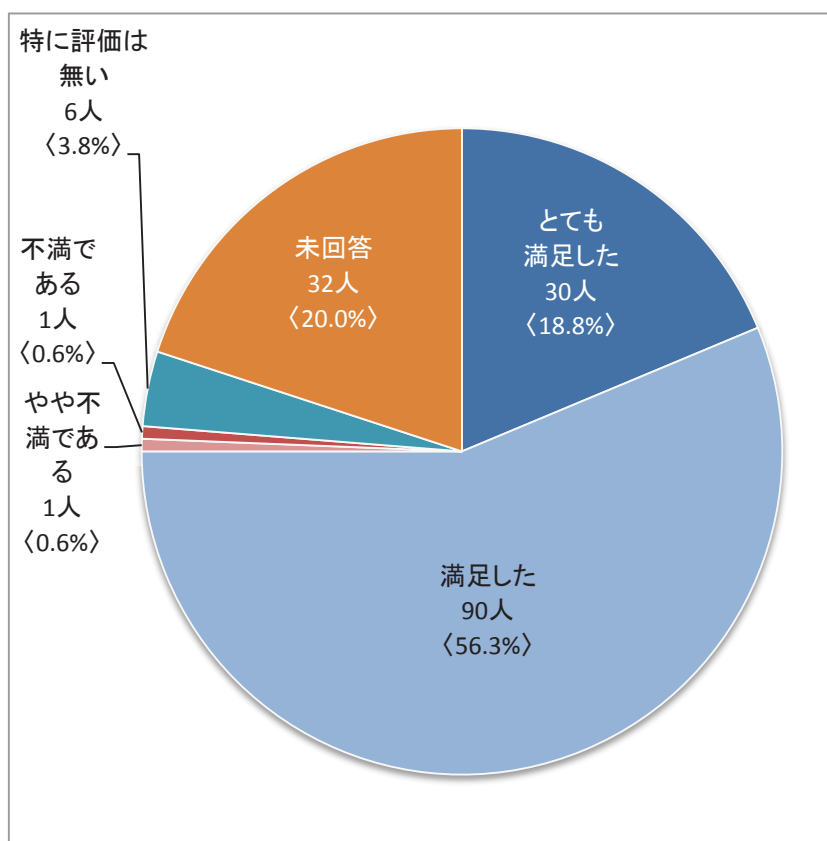


■ シンポジウムの満足度

今回のシンポジウムの満足度を聞いたところ「とても満足した」と回答した人は 30 人 (18.8%)、「満足した」と回答した人が 90 人 (56.3%) となった。否定的な意見としては「やや不満である」「不満である」と回答した人がそれぞれ 1 人ずついたが、満足と回答した人が全体の 75% を占めておりシンポジウムの満足度は非常に高かったといえる。

またその理由を自由筆記で記入してもらったところ、「パネルディスカッションの受け答えが分かりやすかった」「他の人の意見を聞いた」などがあつた。

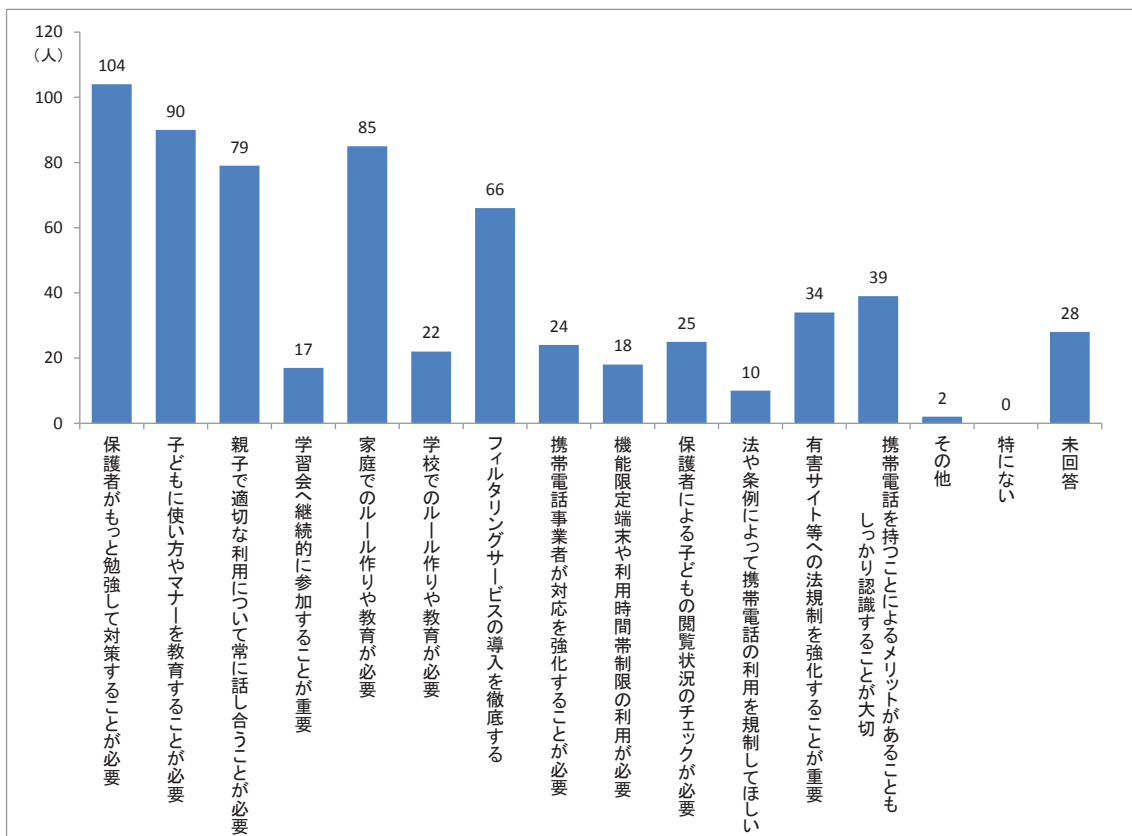
図 2-7 シンポジウムの満足度 (N=160/新潟)



■ シンポジウムに参加して子どもの携帯電話利用についてどう考えたか

シンポジウム後に子どもの携帯電話についてどのような考えを持ったか聞くと最も多かったのは「保護者がもっと勉強して対策することが必要」と回答した人で 104 人、続いて「子どもに使い方やマナーを教育することが必要」が 90 人、「家庭でのルール作りや教育が必要」が 85 人、「親子で適切な利用について常に話し合う事が必要」が 79 人、「フィルタリングサービスの導入を徹底する」が 66 人となった。上位 5 つについては今回のシンポジウムが役に立つと考えられた部分と呼応するように回答者が増えている。学校、その他の学習会などではなく家庭内で、または親子間で携帯電話を持つことに対して話をすべきであるという考えを持った参加者が多いようだ。

図 2-8 参加後の子どもの携帯電話利用についての考え (N=160：複数回答可／新潟)



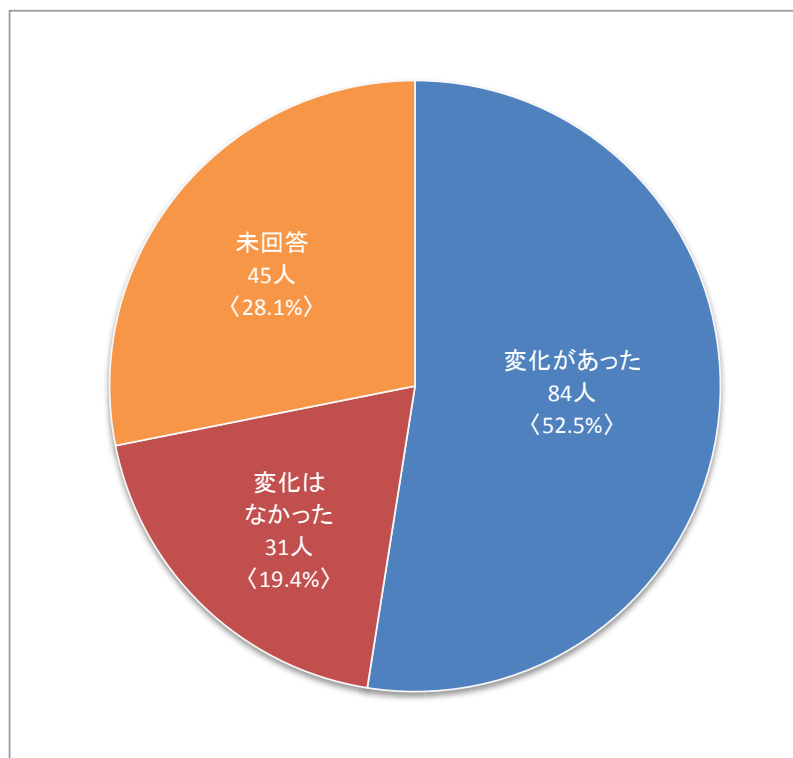
■ 参加後の心境、考えの変化について

シンポジウム参加後に心境や考えに変化があったかどうか尋ねたところ、「変化があった」と答えた人は84人（52.5%）と半数を超えた。その変化はどのようなものか自由記述で記入してもらったところ、「家庭で子どもと話し合ってみたい」という意見が多く見られた。それに伴い「もっと自分自身、親、大人が勉強しなければいけないと思った」という意見も多数あった。

一方、「変化はなかった」と回答した人は31人（19.4%）となった。

新潟のシンポジウムでは事前アンケートと事後アンケートを別々に回収した。グラフ制作にあたり回答者の母数を合わせるために事前アンケート、事後アンケート共に未回答が若干多めに出ていることに注意しなければならない。

図 2-9 シンポジウム参加後の心境、考えの変化の有無（N=160／新潟）



■ シンポジウムに対する意見

図 2-10 どんな内容が「とても役立つ」「役立つ」と感じましたか？

情報が正確であり、多角的な観点からの示唆を受けました
まわりがもっているから買うんじゃなくて今その子に必要か判断する
家庭での話し合いやしつけが大事
子どもをとりまくネット事情、世の中の動き等、私自身少しうかつななあーと思いました
メディアリテラシー教育
いろんな家庭があってよい。自分の家のやり方に、自信を持ってしつけをしていく
スマホなど、機器の進歩によってフィルタリングの状況も変わっていることがよく分かった
藤川先生の話
上の子が来年高校入学予定なので、以前から欲しがっていたケータイを買い与えるつもりでいます。その前には、今回のような講演会には是非参加したいと思いました
携帯に関する教材がある。という事がわかり子どもと一緒に考えていきたいと思います
国・専門家・学者の三者のやり取りがわかりやすかった
現状について、データに基づき知ることができた
現状について
もっと子どもとコミュニケーションを取らなければならないと反省しました
15人そろえば無料の講師を派遣してもらえる制度がある事を知りました
ケータイとスマホのフィルタリングのかけ方が違うという点
携帯を持つてはいけないとは言っていない
・携帯メールをする子は夜更かし
・スマホはフィルタリングが難しい
フィルタリングが有効とわかって良かった
曾我様のような子育てをしていないので、子どもとの話し合いがうまくできない
親が関心を持ち、子どもとモラルを話し合う。フィルタリングを使用する。メディアより体験が大事
藤川先生のケータイ最新事情をお聞きして、自分の持つ情報や感覚とかなり開きがあると感じた。小4の子どもと、今日の内容についてしっかりとコミュニケーションを図りたいと思いました
フィルタリングサービスについて役立ちました
データなどで、全国の子どもの様子を知れたこと
情報収集
親(PTA)が、どう行動すればよいか理解できた
文部科学省などの取り組み、又、今後子どもに対する指導、保護者のモラル向上が必要と感じました
学校での教育面は充実しているが、やはり家庭側の認識が大切だと思った
ネットの使い方も、家庭の中の親子の関係ととてもよく結びついていること
最新の状況が判った
中学3年生の娘がいますが、携帯を持たせていません。何度かほしいと言われましたが、主人は反対し続けました。今はおちついて受験勉強が出来ています。家庭での躾もしっかりしていきたいと思います
携帯の是非を問うものではないですね 良く使うことを学んだ
ネットを安心して使うためにはどうするか
見えない相手が何を考えているか？
夢(進路)の為に使っているというのは初耳で
情報教育の大切さ
そもそも「ケータイモラル」について、まったくわからなかったし無関心でした。「目からウロコが取れた」ので、今後勉強していきたいと思います
家庭でのルール、モラルを話し合うことが必要
躾
自分の家庭にはまだ起こっていない問題なので、準備を進める余裕があると感じました
子どもに携帯電話の有害性を、分かりやすく説明できると思う
保護者がケータイモラルをもっと知る事が必要だと思った
家庭で注意すること。保護者同士で考えること。子どもを見守る努力をしなければならないこと。いいきっかけになりました
ケータイモラルの重要性、親のモラルの重要性
携帯は必要に応じて持つべきか判断し、持たせたときは家族でのルール作りが大切ですし、子どもにもメリット・デメリットを理解してもらおう。PCもキケンな事が沢山ある事を理解させる。もちろんいい事も

ルールを決めて使用させる
こういう話を聞くことが、自分・周りに役立つと思う
ケータイモラルのことがわからない私ですが、困ったときは文科省も民間の組織も一生懸命になって子ども社会を守っていてくれることがわかりました
ケータイを中止しても他のツールで通信すること。ケータイ会社のオプションプランがいろいろある
ケータイであって携帯電話ではないこと。という認識を強めたこと。いい面もあること。道具を上手に使うという視点で見直したい
子どもと大人の機能の理解
親がもっと関心を持って対応していくことが大切(子どもとの会話を増やすこと含め)。犯罪被害の実例からフィルタリングの必要性
携帯に必ずフィルタリングをかけて子どもを守る
フィルタリングをかけると安全
ケータイは使い方が重要
民間の方の取組がわかった。今後連絡をとり活かしていきたい
ケータイ等のツールはダメではなく、きちんとルール等を決め、モラルをしっかり教え、フィルタリング等を使用すればOKということがわかりました。家庭でも話し合います
ネットキャラバンをぜひ使い、もっと学びたい
子どもが小学生でケータイの必要性を考えてはいなかったが、考える事ができた
情報のウラを読む、かきこくならなければならない、ウソを見抜く力
子どもには携帯電話を持たせる＝悪いではなく、使い方を親子共に学ぶことが大切と分かります
自分自身がPC・携帯等のやり方等がわからなかったのですが、少しでもわかり、親の責任を感じました
自分がもっとネットに対することを勉強しなければと思った
インターネット・電話について
やはり、フィルタリング！

図 2-11 シンポジウムに参加して、あなたの心境やお考えに変化はありましたか？

携帯にもっと詳しくならないといけないと思いました
親の方がもっと勉強して、子どもと話し合いながら利用したいと思いました
ケータイは便利ではあるが、危険なもの。とゆう認識があったが、意識の持ち方で危険は遠ざけられる事を理解することが出来た
いろいろ考えさせられました
ゲーム機やケータイ使用について家族で話し合ってみようと思いました。自分自身、インターネット等について詳しくないので勉強し対策をとれるようにしたいと思いました
もっと、自分の家庭に自信を持ちたい。ルールをしっかり決めて監視していきたい。父親の権限をもっと強くなければ
ケータイに限らず、全てのモラルが低下している。PTA活動でも感じるが、聞いてほしい保護者は、こういうものに参加してくれない。グチになりました
生活のバランスを考えて、ツールとしての携帯の使い方を見直していく
ケータイを、今まだ子どもに持たせていませんが、家のパソコン、Wii、PSP、DSi、PS3全てに帰ったら直にフィルタリングをかけなくっちゃ！！
子どもを信じているが、チェックも必要と思った(携帯の使用方法について)
子どもとケータイ(携帯端末を含む)についてのルールを話すことと、防止できる機能について保護者が情報収集する必要がある
マナーの必要性
携帯の危険性をきちんと話し合っていこうと思いました
去年、ケータイについての講演会を経験したので
子どもの使用しているPCにフィルタリングがかかっているか確認したい
何気にかけている携帯(自分が)にはいろんな怖い事もあるんだとわかりました
・ゲーム、携帯にかかわらずに、自然体験などを与えていく大切さを感じた
親が携帯の使い方をしっかり説明する
携帯電話を子どもに持たせることへの恐怖が和らいだ
携帯電話を子どもうちは持たせるつもりもなかったのですが、関係のない話だと思っていたのですが、電話に関しては持たせるつもりはないですが、それ以外のメディアでも、対策が必要なのだという事を知ることができて良かったです
もっと子どもと一家で話し合のどしたい！
考える、思うだけではなくて、少しは親も学習し実行に移したいと思う。子どもに言う前に、親がまずしっかりお手本を見せたいです
PR活動の1つとしてeネット安心キャラバンを活用できたら良いと感じた。学校、親全体で共有できたらすばらしいと思います
ケータイのモラルについて考えさせられた
自分の躰から、はじめようと思いました
携帯、PCに興味のない長女だったので、安心して持たせていました。実際あまり使用はしませんが、それとは逆に次女は興味がありすぎる。今は携帯は持っていませんが、PCの使い方など話し合いは必要と思いました

色々と再確認できました。話し合いは学習会であれ、家庭であれ、大切なことだという実感をしました
地域PTAに関心を高めてもらい、取り組んでいきたい
親として子どもへどう向き合っていくか、家庭でのルール作りが必要だと思いました
携帯の使い方をしっかりとしつけが必要だと思えます
「使わせない」よりも安心安全に使うための方法として考える。親がもっと勉強をしなければいけないと思う
他の人にも話を聞かせたかった
子どもに携帯はまだ先ですが、今のうちから話していきたい
そもそも「ケータイモラル」について、まったくわからなかったし無関心でした。「目からウロコが取れた」ので、今後勉強していきたいと思えます
携帯を持つことのメリットもあること
自分の携帯電話の使い方を見直し
現在、子どもは被害にあう側が多いようですが、子どもたちに大人が騙されるような社会(ネット)になっていくように感じました
学校、教育委員会、文科省での取り組みがよくわかった
小・中学生には必要がなければ携帯を持たなくてもよいのではと考えていました。親の考え方一つだと思うが、子どもにきちんと使わせられれば(フィルタリングサービスを使用する)持たせられるのだと思った
社会の動き、参加者の心の変化を感じられた気がしました(文科省を身近に感じました)
今まで以上、ルールをしっかりと作りたと思います
自分の子どもはまだ小さいですが、これからの子どもの携帯未来について、考えることができたと思う
家庭でケータイ、PC etc.についてよく話し合おうと思いました
我が家は、パソコンはありますが、インターネット接続はしていません。中2、中1の子どもに早く入れてくれと言われ続け、困ること。怖さが先になって前に進めませんでしたが、社会全体で子どもを守ることを考えていくことが嬉しく、安心しました。これからの時代の子どもの成長していったほしいので家族で話し合い、ネットと正しい付き合いをしていきたいです。ありがとうございます
我が子とケータイとの付き合い方を話をしてみようと思った
もっと勉強しなければ!
子どもとのルールがなしくずし的にできてきている。再度話し合ってみようと思った。子どもを信頼はしているが、時々チェックすることも必要だと思った
我が家では中学生の娘のパソコンの使用に時間制限をもうけています。また使用はリビングです。ネットやサイトの使用に関しては折を見て話をするようにしていますが、子ども自身のプライバシーも守るべきだと思います。親子間の信頼関係を保っていけば、子どもは道をそれないと思います
今一度、子どもたちと携帯について話し合う機会を設けたいと感じました
家庭用パソコンへのフィルタリングの必要性が高いことがわかった
まだ先ですが、子どもたちがケータイを持つ頃には、今日の話をしたいと思えます
すべてが携帯が悪いということではないこと
小学校に持ち帰って、次年度のテーマにしたいと思いました。eネットキャラバンはぜひ活用したいと思いました
子ども(中3・男子・一人っ子)には携帯は持たせていないのですが、パソコンは使用させています。パソコンはフィルタリングしておらず、フリー状態です。子どもとはよく話をして正しい使い方を親子ともどもしていきたいと思いました
携帯を持たせてもモラルを身につけていけば安心。バーチャルよりリアル
あらためて、インターネットの犯罪のおそろしさを痛感しました。そして、親の責任
私は、自分でケータイを持っていますが、特にネットをつなぐこともなくメールや電話しか知りませんが、ゲーム機やテレビでつながることは知っていましたが、どのようにつながる方法もわかりません。なので、子どもの方が使い方が詳しいと思います。なので、子どもの方からパソコンは便利だけどキケンもあるということを知らせ、子どもの方からフィルタリングをかけてほしいと言われたらかけようと思っていました。なので、簡単に操作ができるようになったら、チャレンジしてみようと思います
携帯を子どもに持たせる必要性や、使い方やマナーに対しての教育や親子での対話による対応が必要である事に気づきました
フィルタリングの重要性を改めて痛感しました
子どものネットの使い方につき、家で話をしていきたいと思う。無制限に使っていたので・・・時間とかの制限は親の勉強不足で、後手でした・・・
忘れかけていたものを思い出させていただき、勉強になりました
使い方次第で恐ろしいと思った

図 2-12 シンポジウムに対するご意見を自由にお書き下さい。

もっと親も勉強するべきです
大変勉強になりました。メディアリテラシーの重要性を感じました
やはり、大人の教育が一番大事だと思います
子どもを誘惑するテレビゲーム、DS、携帯、スマホを作っている企業に対して怒りを感じています。世の中は賢い親ばかりではありませんから
携帯にばかり注意がいていたが、ゲーム機、パソコン等のネット対策も考えていこうと思いました
もともと我が家ではゲームはもちろん、携帯を持たせる事は考えていませんでした。今は勉強や部活が第一だと思うので、子どもたちも納得しています。今後、高校に行ってからどのように対応していくか親子でのルールを決めて子どもたちを守っていきたくと思います
来年も内容の濃い学習会をお願いします
具体的に、プロフサイトや掲示板の見方について知る機会が欲しい
子どもは悪くない 大人がつくって何らかの利益を得ようとしている 根本の規制
インターネットを単に禁止するだけでなく、どう使うかを年齢に合わせて教え、覚えないと大人になっていきなりでは越えられないハードルになりかねないので、使わせて教えては？
「eネットキャラバン」を学年PTAの保護者会で採用してもらいたいと思いました(中学生)
(個人的に)中学校に携帯を持ち込みを許可にしてほしい。学校でのルール作りや教育が必要
・携帯会社に対して、1日のメール数制限(1日10件・20件・30件制限の選択)、電話時間制限(22:00以降不通話・メール×、23:00以降不通話・メール×などの選択)をかけられるように、「安心ネットづくり促進協議会」などで要求してほしい。親が言うのは大事だが、管理できない部分があるので、契約で管理できるようにしてほしい
ケータイ等を使っている人が悪いのか、使い方が悪いのか指導できない。親が悪いのか、悪用する者・犯罪に使う奴が悪いのか
親の意識・知識を、ネットに向けて(これからの生活にネットは避けて通れなそう・・・)対応するひつようがあるのだと思いました。大事なことは、子どもにもっと目を向けていかねばならない
ありがとうございました。関心を持てるようになりました
わかりやすい説明をありがとうございました
携帯電話に関する最新の技術動向を親に伝える手段も必要ではないか
もっと多くの人にも参加してもらえらる会があるといいです
「あっ」という間に時間が経ちました。それ位、勉強になった学習会であったと思います。もっと時間があつたら良かった(あと1時間くらい)。来場された方の意見をもっと聞いてみたかったです(質問だけでなく意見も)
参加していない父兄にどうやって伝えていこうか、具体的な方法がよくわかりません。まずは親がどのように考えていて、自分はどうか、子どもに言うだけでなく親たちが自分自身を振り返ることが大切だと思いました
思ったよりおもしろかったです。ためになりました
無償の資料等の存在がわかったので単身の勉強会等で活用したい
小・中学生の携帯電話の所持は原則禁止へ強化した方がよい
ふだん話を聞く事のない、文部科学省の方や大学教授の方の話が聞いてよかったです
講演がとてもわかりやすく、熱心な参加者ばかりでとても実のあるものになりました
とても参考になりました。どうも有難うございました
すごくよかったですと思います。TVでのCMで、フィルタリングの大切さを出してははどうですか？
先生方も参加するとういと思いました
フィルタリング自体、子どもを信じてないような気がして、いかがなものかと思います
曾我さんのお話は心にひびくものがあります。すばらしい
いろいろなデータを紹介していただきよくなりました
教科書のiPad化を検討試験中であるなどいろいろな話が聞いてよかったです
ありがとうございました
初めて参加しました。とても役に立つ話が聞け参考になりました。何よりも分かりやすかったです。進行もテンポ良く大変良かったです。大勢の中で質問するのは大変勇気がいらります。質問内容を途中で記入してもらい、集めるのも一つの方法かもしれません
とても楽しい学習会でした
学校の先生も出席した方がよいと思いました。学校で、パソコンはいいけど怖い面もあるので家に帰ったら話し合いをするように言ってもらいたい
今頃ケータイモラル？子どもが個人でPCを持つ時代に、ケータイを使ったダブル・問題点を問うのは遅れているのではないかと。タイトルをケータイ→ネット社会にしたら討論しやすいと思います。トークセッションにおいても「ケータイ」ではなく「ネット」の扱い話題が多い
大変わかりやすく、受け入れやすい会でした。ありがとうございました
もっと多くの人に聞いて欲しい話なので、まわりの方に知らせていただきたい
もう少し実例を知りたかった
有害サイト等の、もっと具体的な情報の学習会の開催

2.3 第2回開催

2.3.1 開催概要

タイトル：文部科学省委託事業「ケータイモラルキャラバン隊」京都市PTA連絡協議会 研修会

開催日時：平成23年12月10日（土）13時30分～16時10分（開場13時）

開催場所：京都府京都市 きらっとプラザ京都産業会館シルクホール

定員：750名

開催形式：パネルディスカッション

主催：株式会社メディア開発総研 文部科学省 京都市PTA連絡協議会
人づくり21世紀委員会 京都市地域生徒指導連合会

後援：京都市教育委員会

協力：安心ネットづくり促進協議会

2.3.2 プログラム

図 2-13 開催スケジュール

時間	場所・内容	登壇者	
13:30	開会挨拶	京都市PTA連絡協議会 会長	長屋博久様
13:40	ケータイモラル、情報等に関する小学校・中学校での取組	文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長	勝山浩司様
14:00	そうか！なるほど！子どもたちとケータイ	ネット教育アナリスト	尾花紀子様
14:40	休憩 10分間		
14:50	パネルディスカッション コーディネーター	ネット教育アナリスト 文部科学省 スポーツ・青年局 青少年課 課長 京都市小学校PTA連絡協議会 会長 京都市立中学校PTA連絡協議会 会長 京都市携帯電話市民インストラクター (社)日本PTA全国協議会 顧問	尾花紀子様 勝山浩司様 富樫一貴様 久米功一様 片岡志保様 曾我邦彦様
16:10	閉会あいさつ	人づくり21世紀委員会 幹事長	奥村高史様

16:20 シンポジウム終了

2.3.3 講演者プロフィール

講演者



尾花紀子 ネット教育アナリスト

1984年 日本 IBM 入社。各種コンサルティングや人材育成、プロバイダー事業、キッズ教育ソフト監修他に携わり、2005年フリーのコンサルタントに。同時に、IT のプロと母親との両目線で現状を分析する「ネット教育アナリスト」としての活動も開始、講演・執筆活動の他、監査機関の理事や行政機関の委員として青少年のネット環境作りにも幅広く寄与。専門家としてテレビ・ラジオ出演や、NHK 教育テレビ・データ放送 『インターネット・ケータイ「あんしんナビ」』 の監修・指導も行っている。

パネルディスカッションコーディネーター



曾我邦彦 (社)日本 PTA 全国協議会 顧問 (前会長)

(株)童謡 代表取締役、(有)ソガクリエイト代表取締役。1980年日本大学大学院理工学研究科(修士)卒業、同年(有)大庭音楽事務所入社。1994年山西小学校 PTA 会長以降、西原村 PTA 連絡協議会会長、阿蘇郡 PTA 連合会会長、熊本県 PTA 連合会理事・会長、(財)熊本県 PTA 災害見舞金安全会理事長、NPO 法人日本国際童謡館理事長等々を歴任。現在は現職の他、省庁の多くの審議会、検討会等の委員を歴任。

2.3.4 シンポジウム概要

2.3.4.1 現地取組み説明「子どもを共に育む京都市民憲章」の実践に向けた本市 PTA の取組と役割

登壇者：京都市 PTA 連絡協議会 会長 長屋博久

<講演内容>

- ・京都市 PTA 連絡協議会の携帯電話に関する取組み
- ・「子どもを共に育む京都市民憲章」について

2.3.4.2 文部科学省施策説明「ケータイモラル、情報等に関する小学校、中学校での取り組み」

登壇者：文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長 勝山浩司

<講演内容>

1. 子どもの携帯電話等の実態把握について

子どもの携帯電話の学年別所持率、使用状況、学習への影響等についてデータを紹介。

2.子どもや保護者への啓発

子ども向け及び親子のルールづくりに係るリーフレットの紹介。青少年インターネット環境整備法の普及啓発状況についての説明。

3.学校での携帯電話の取扱い

小中学校への原則持ち込み禁止等、指針についての説明。

4.ネット上のいじめへの対応

「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアルの説明。

5.情報モラル教育の推進

新学習指導要領の総則において、情報モラルを身に着けることを規定したことの説明。

6.平成24年度概算要求

青少年を有害環境から守るための取組の推進について、および本事業の継続についての説明。

図 2-14 文部科学省の取組資料

文部科学省委託事業「ケータイモラルキャラバン隊」

子どもの携帯電話をめぐる問題に関する文部科学省の取組

1. 実態の把握

- ・子どもの携帯電話の使用状況の把握
平成22年度全国学力・学習状況調査によると、小6の約30%、中3の約60%が携帯電話を持っている。また、小6の約10%、中3の約32%が通話やメールをほぼ毎日している。
- ・子どもの携帯電話等の利用に関する調査
子どもたちの携帯電話の利用実態や携帯電話に対する意識等を把握するため、全国の小6、中2、高2とその保護者及び学校を対象とした調査を平成20年度に実施（中2の携帯電話所有率の約20%がメール送受信1日50通以上）。
- ・いじめに関する調査を通じた実態把握
毎年実施している「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、平成18年度分の調査より、調査項目の見直しを行い、「いじめの態様」に、「パソコンや携帯電話等で嫌なことをされる。」という項目を追加。（小・中・高・特別支援学校において、平成22年度は2,924件 ※若干重複、宮城県、福島県の数字を含まない。）
- ・学校裏サイト等の実態把握
青少年が利用する非公式サイト・匿名掲示板等に関する実情調査を平成19年度に実施。全国で約38,000の非公式サイト（いわゆる学校裏サイト）が確認できた。そのうち、約2,000の非公式サイトの内容を確認したところ、誹謗中傷の言葉が約50%、わいせつな言葉が約37%、暴力誘発の言葉が約27%含まれていた。
- ・青少年が利用するコミュニティサイトの実態把握
青少年が利用するコミュニティサイトに関する実情調査を平成21年度に実施。調査期間中約10万件の投稿を確認し、うち注意を要する投稿、問題のある投稿は6,158件と全体の約6%。投稿者の約6割は女性であり、投稿サイト種別ではブログ・ウェブサイト（ブログ）が全体の約38%を占め、掲示板は約9%であった。注意を要する投稿、問題のある投稿の内訳は、個人情報掲載が約60%、次いで不適切行為の告白が約21%となっている。この調査により、掲示板型のサイトからブログやSNSへの移行、監視が徹底されていないサイトがある、特定のサイトに特定の書き込み（自殺・自傷など）をする傾向がみられた。

2. 子どもや保護者への啓発

- ・子ども向け及び親子のルールづくりに係るリーフレットの作成・配布
平成22年2月17日、携帯電話のインターネット利用に際しての留意点やトラブル・犯罪被害の事例、その対処方法のアドバイスなどを盛り込んだリーフレット「ちよっと待って、ケータイ」を作成し、全国の小学6年生約120万人全員に配布。また携帯電話利用に係る親子のルールづくり等に關するリーフレット「ちよっと待って1はじめてのケータイ」も作成し、PTA団体・都道府県教育委員会等に対して配布。現在でも文部科学省HPからダウンロード可能。
- ・ケータイモラルキャラバン隊の結成
インターネット上のマナーや家庭でのルールづくりの重要性を周知するための有識者等によるキャラバン隊を結成し、全国（6ヶ所）で保護者等を対象とした学習・参加型のタウンミーティングやワークショップなどを平成23年度より開催。
URL (http://www.mext.go.jp/a_menu/seisyoumen/moral/1313148.htm)

3. 学校での携帯電話の取扱い

- ・携帯電話等をめぐる問題への取組の推進
携帯電話の学校への持ち込みに関する調査の結果を踏まえて、小中学校への原則持ち込み禁止、高等学校の校内での使用制限等の指針を示した「学校における携帯電話の取扱い等について（通知）」を平成21年1月30日に発出。

4. ネット上のいじめへの対応

- ・「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）の作成・配付
「ネット上のいじめ」を発見した場合の対応の手順や指導の在り方、家庭との連携等について、マニュアル・事例集を平成20年11月12日に作成し都道府県教育委員会等へ配布。
- ・学校ネットパトロールに関する調査研究
ネットパトロールの効率的・効果的な実施方法や、継続的な実施の在り方等について調査研究を平成22年度から実施。

5. 情報モラル教育の推進

- ・新学習指導要領等の実施
小中学校及び高等学校の新学習指導要領の「総則」において、各教科等の指導に当たっては、児童・生徒が「情報モラルを身に付ける」ことを規定。小中学校については平成21年4月から、高等学校については平成22年4月から先行実施。また、教育の情報化に関する総合的な推進方針「教育の情報化ビジョン」を平成23年4月28日に策定。このなかで、情報モラル教育の重要性について明記。
・違法・有害情報に適切に対応する能力の育成を含む情報モラル教育を推進
◆平成18年度に情報モラル指導モデルカリキュラムを作成。
◆平成19年度に情報モラル指導ポータルサイトを構築。
◆平成22年度に国立教育政策研究所において、小中学校教員向けの指導資料「情報モラル教育実践ガイド」を作成。
◆平成22年度から、独立行政法人教員研修センターにおいて、情報モラル教育に関する指導者研修を実施。

6. 平成24年度概算要求

- ・青少年を有害環境から守るための取組の推進
〔24年度概算額 60百万円（23年度予算額 101百万円）〕
フィルタリングの普及啓発やケータイモラルキャラバン隊については継続。インターネットにつながる新たな機器への対応や緊急時に有効なインターネットの活用など青少年が研修するとともに、課題や対処法も含めて話し合い。その結果を、家族や友人に対して発信する事業「青少年安心ネット・ワークショップ」を新規要求。また、HPよりダウンロードできる有害情報意識啓発動画の作成も要求。（地域の実情に応じた取組支援の委託事業は、財務当局と調整中。）

<講演風景>



2.3.4.3 講演セミナー「そうか！なるほど！子どもたちとケータイ～現状から学べる、未来の担い手たちの育み方～」

登壇者：ネット教育アナリスト 尾花紀子

<講演内容>

- ・ケータイを持たせるタイミングの判断方法と与え方
- ・本当に必要な時期かどうかを見極めるための会話を
- ・購入後のステップは保護者が管理して必要なときに貸し出す
- ・大人の勘違いを正して、子どもとじっくり向き合おう

<講演風景>



2.3.4.4 パネルディスカッション

登壇者：ネット教育アナリスト 尾花紀子

文部科学省 スポーツ・青年局 青少年課 課長 勝山浩司

京都市小学校 PTA 連絡協議会 会長 富樫一貴

京都市立中学校 PTA 連絡協議会 会長 久米功一

京都市携帯電話市民インストラクター 片岡志保

コーディネーター：(社) 日本 PTA 全国協議会 顧問 曾我邦彦

<パネルディスカッション内容>

- ・携帯電話よりも危険な機器
- ・保護者が認識すべきネット機器
- ・親がどういう意識で買い与えるかが大切
- ・京都市の小学校の取組み
- ・子どもたちを守るコミュニケーション
- ・地域・学校・家庭が環境を整える
- ・子どもを巻き込んで親を教育する
- ・変化した子どものコミュニケーション
- ・子どもにルールを守って使わせる
- ・ケータイの問題ではなく子育ての問題
- ・子どもにとって大事な三間

<パネルディスカッション風景>



2.3.5 第2回開催結果と評価

2.3.5.1 アンケート結果より

■ 講演について

アンケートに回答した98人に対して各講演に対しての感想を聞いた。文部科学省の講演は「とてもわかりやすい」が24人(24.5%)、「わかりやすい」60人(61.2%)と比較的分かりやすいと回答した人が8割以上になった。一方、比較的に分かりにくかったと回答した人は「ややわかりにくい」と回答した2人(2.0%)だけであった。多くの人に評価されたと考えてもいいだろう。

尾花氏の講演で最も多かったのが「とてもわかりやすい」で49人(50.0%)と半分の人が「とてもわかりやすい」と回答し、圧倒的な支持を受けた。「わかりやすい」と回答した人も40人(40.8%)に上り、9割以上の方が肯定的な回答であった。参加者からの圧倒的な支持を得ており、大部分の方に満足いただけたようだ。

パネルディスカッションについては、「とてもわかりやすい」15人(15.3%)、「わかりやすい」36人(36.7%)を合わせても約50%の人のみが肯定的な意見であったため、今後このような形式で行う場合は今回の反省を活かし、アンケートの導線を含め改善する必要があるだろう。

図 2-15 文部科学省の講演について (N=98/京都)

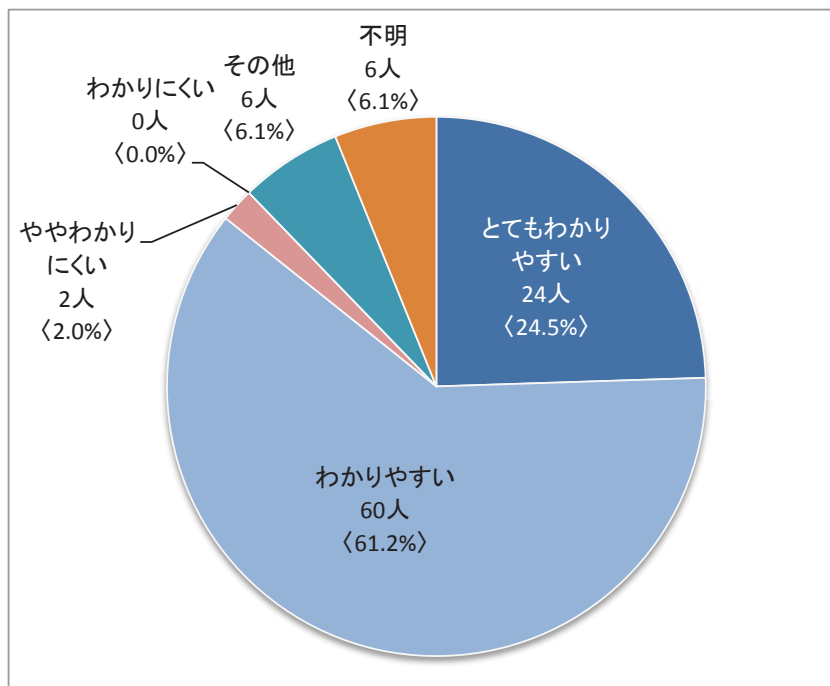


図 2-16 尾花氏の講演について (N=98/京都)

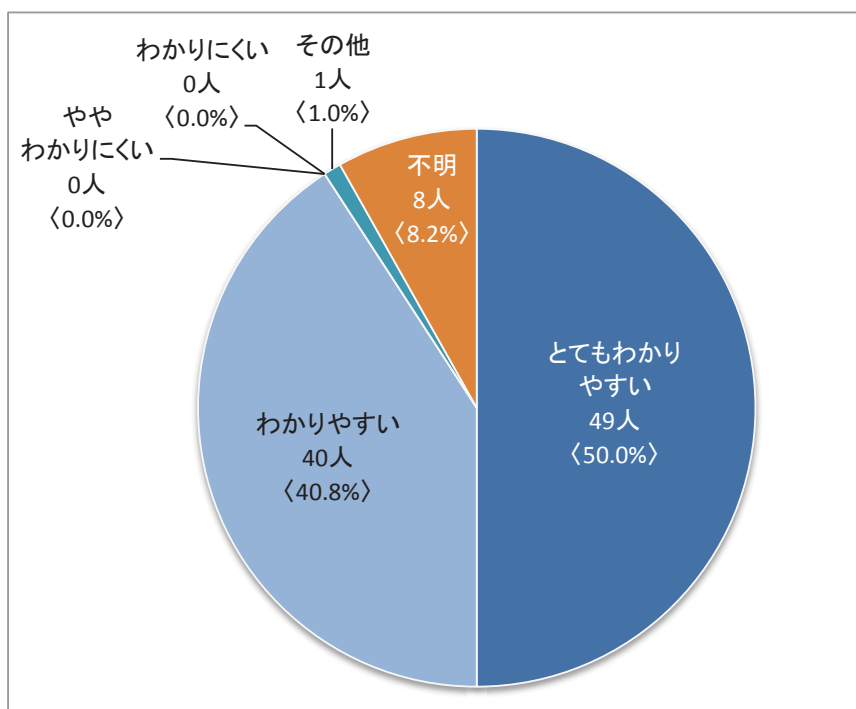
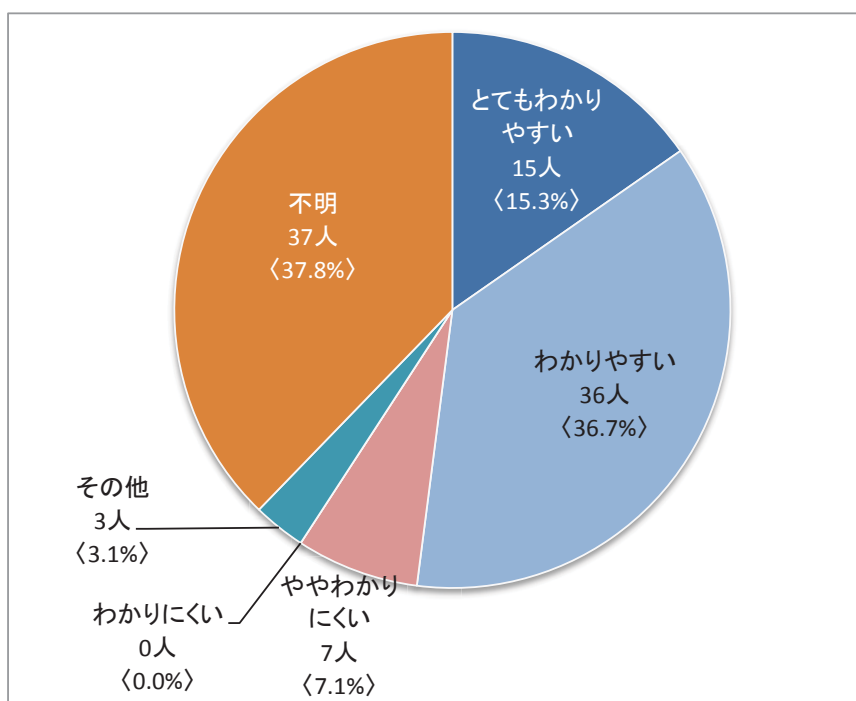


図 2-17 パネルディスカッションについて (N=98/京都)

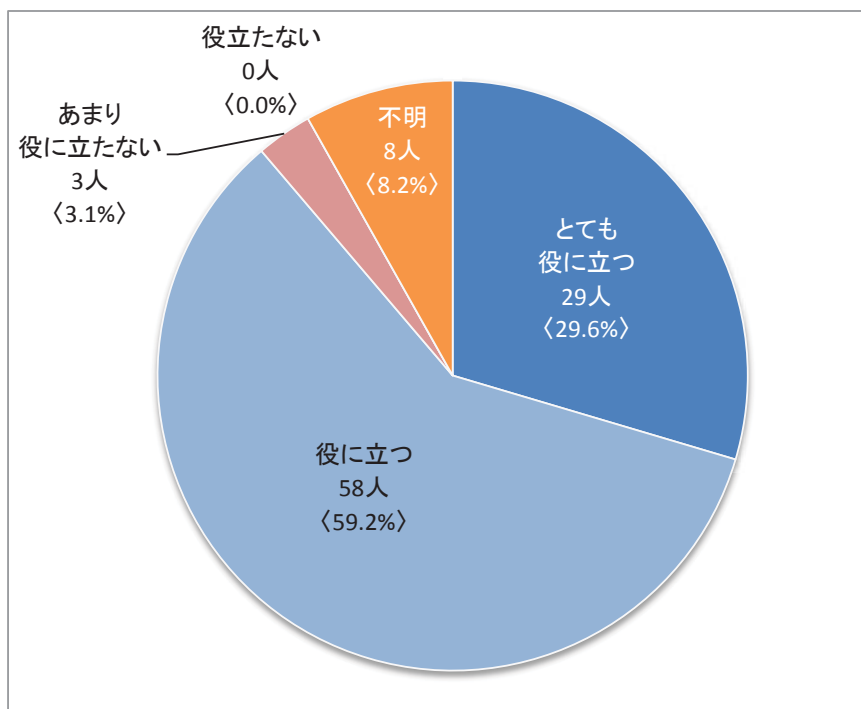


■ 講演会の内容は今後に役立つか

講演会およびパネルディスカッションの内容は子育てや教育・指導、今後の活動や取組みに役に立つかと聞いたところ、「とても役に立つ」と回答した人が 29 人 (29.6%)、「役に立つ」と回答した人は 58 人 (59.2%) となり、比較的役に立つと回答した人が 9 割近くに上った。このことから今回のシンポジウムの内容は一定の評価を受けたと考えていだろう。一方否定的な意見としては「あまり役に立たない」と回答した 3 人 (3.1%) だけであった。

「とても役立つ」「役に立つ」と感じた人に、どんな内容が役に立つか自由筆記にて記入してもらったところ、「ケータイの基本的な知識・情報が得られた」「フィルタリングについての情報が得られた」「ケータイに関してだけでなく子育てに対しての会話の重要性」などがあげられた。もっとも多かったのが「ケータイの基本的な知識・情報が得られた」という意見であり、「ゲーム機がネットに繋がる事が分かった」など基本的な認識から「プロフ削除方法からキャッシュについての知識」など参加者の元々の認識にも幅があった。

図 2-18 講演会（およびパネルディスカッション）の内容は役立つか（N=98/京都）

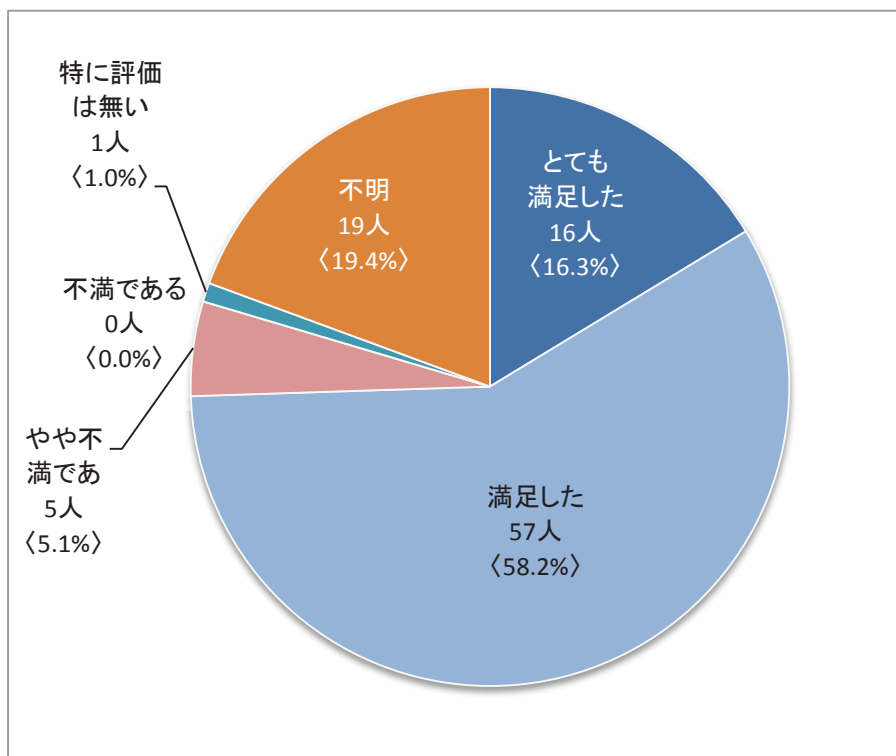


■ シンポジウムの満足度

シンポジウムの満足度を聞いたところ「とても満足した」と回答した人は 16 人 (16.3%)、「満足した」人は 57 人 (58.2%) となった。7 割以上の方が比較的満足度は高かったと評価している。一方で「やや不満である」と回答した人は 5 人 (5.1%)、「不満である」と回答した人はいなかった。回答の中には「特に評価は無い」と回答した人が 1 人いた。この結果を踏まえると、今回のシンポジウムの満足度は高かったと評価してもいいだろう。

今回 5 つの選択肢で評価してもらったが、その理由について自由記入してもらった。内容としては「講演を聞くことでもやもやしていた自分の考えを整理できた」「説明がわかりやすかった」という意見があった。

図 2-19 シンポジウムの満足度 (N=98/京都)

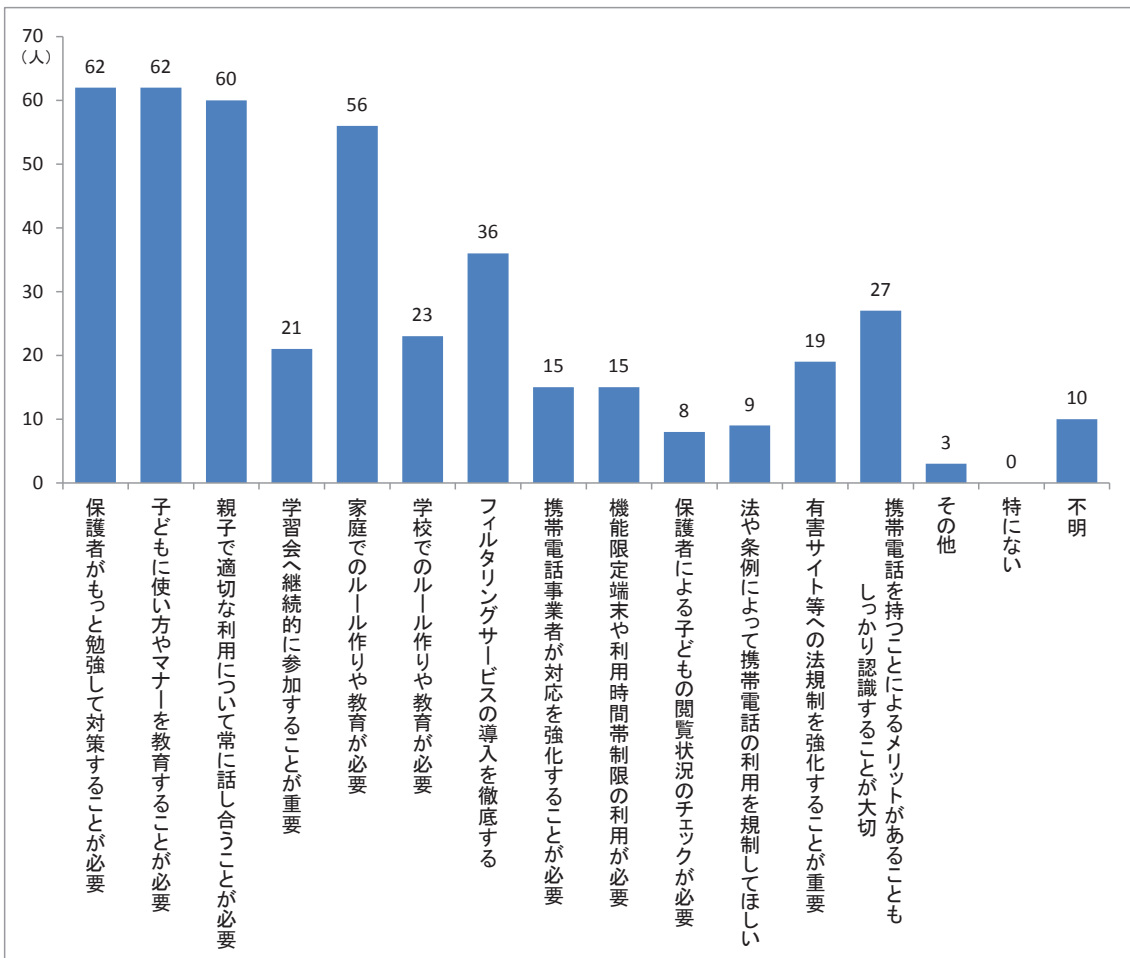


■ シンポジウムに参加して子どもの携帯電話利用についてどう考えたか

シンポジウム後に子どもの携帯電話利用についてどのような考えを持ったのか聞いた。最も多かったのは「保護者がもっと勉強して対策することが必要」「子どもに使い方やマナーを教育することが必要」で共に 62 人が回答した。次いで「親子で適切な利用について常に話し合うことが必要」の 60 人、「家庭でのルール作りや教育が必要」の 56 人となっている。俯瞰してみると、学校や家庭の外に頼るのではなく家庭内での取り組みが重要だと言う参加者の考えが見えてくる。

「その他」の意見としては「まず大人に対してのマナー・モラル教育が必要」「子どもには携帯電話を持たせない」「企業が子どもを守れる形で売るという法規制をかける」などの意見があった。

図 2-20 参加後の子どもの携帯電話利用についての考え (N=98：複数回答可／京都)

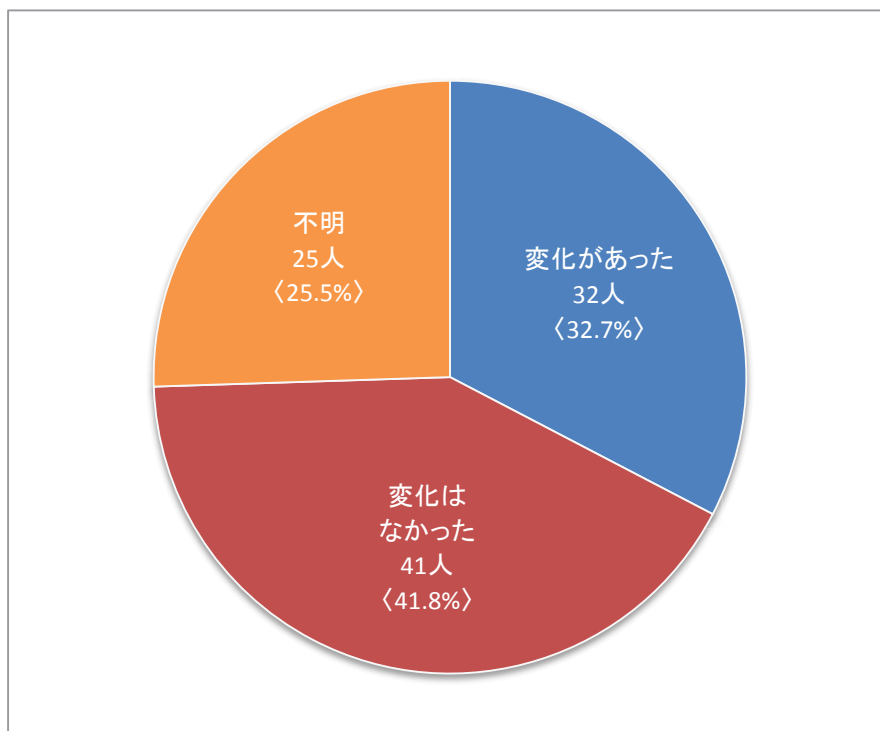


■ 参加後の心境、考えの変化について

シンポジウムの参加後心境や考えに変化があったか聞いたところ、「変化があった」と回答した人は32人(32.7%)であった。最も多かったのが「変化はなかった」の41人(41.8%)だった。また未回答等の「不明」も25人(25.5%)と多かった。

加えて、「変化があった」と回答した人にその変化について自由記入してもらったところ、内容は「子どもとの対話が大切だと分かった」「まず親が学ぶべきだと思う」などの意見が多かった。また「変化はなかった」と回答した人については、京都では盛んに携帯電話に対する取組みが行われているため、すでに参加者の中で一定の考えを持った人が多くいた。そのため、その考えに間違いはなかった、再認識したという意味で「変化はなかった」と回答した人もいることが考えられる。

図 2-21 シンポジウム参加後の心境、考えの変化の有無 (N=98/京都)



■ シンポジウムに関する意見

図 2-22 どんな内容が「とても役立つ」「役だつ」と感じましたか？

フィルタリングの情報
依存させない持たせ方、大人のマナー不足という点は参考になりました
ケータイだけに限らず、正しい知識を正しく身につけることの重要性をあらためて感じた
具体的にサイトの削除の手順を説明してもらったこと
ケータイの現状と対応方法
実例に基づく説明・解説
キャッシュの知識 本体ロックの知識
親の意識を変えていく事が大事である。体験遊びで心が育つ
子どもに今日聞いた話、危険な事はどういう事があるか、気をつけないといけない事がたくさんある事を話していこうと思います。ちょうど携帯がほしいといっている事もあるので・・・
フィルタリングにも種類があることは知りませんでした。
広く保護者に考えてもらわなければならないと思ったこと
PTA活動に参加できない親を作り上げてしまっているのはなぜか、考えないといけないと思いました。どんな親にもやさしくしてください。親も昔子どもでした
プロフの削除方法 キャッシュという概念
プロフ情報の削除の仕方 小中学校での取組(子どもが大きいので)
知らない事を知る。そして正しく伝える。その為の情報をいただいた
たくさんの情報を教えていただき本当によかったです
ケータイからの子育て法の考え方をまとめる
家族のあり方を考えられた
日々の子育てを見直すきっかけになりました
子どもに説明する時の小ワザ
テーマはケータイだったが、考え方が子育てに共通していた
携帯だけでなくゲーム機などもインターネットにアクセス出来ていること
親を変えるより子どもをまきこみ、変える努力をし環境を整えるようにすること
ケータイだけでなくゲーム機も、こわいことを初めて知った
やはり小3にはまだ携帯は必要ないと思いました
ダメから入らず、勘違い・・・という伝え方、とてもいいと思いました。参考にさせて頂きたいと思います
・携帯の貸し出しルール ・親御さんが協力的でない所は、子どもちゃんを仲間に・・・いただきですね！
親が十分な知識を持って、子どもに教えることが大切ということがよくわかった所
具体的な対策や、防止、削除方法
携帯、ゲーム機の前にコミュニケーションや、人としての生き方が重要である
具体的な対処法(削除の仕方など) ネットの問題は、ケータイだけではないということ
ケータイと子どもというより、何事もまず大人がマナーやモラルを守らないといけないし、改めて子どもの鏡になっている事を意識すべきだと思う
携帯やゲーム機で、犯罪が起こるというのは、他人事と思っていました。しかし、何かのきっかけで犯罪にまきこまれたりしない様に親子で考えるきっかけができました
まだ携帯も持たせていないので、今後持たせる事になった際、ちゃんと話が出来る様な気がします。もっと子どもを巻き込む、自分の子どもじゃなくても広く巻き込みたいです
フィルタリングや削除時にクリアしてからの削除(キャッシュに残らない)
親が間違った情報を思い違っている
子ども達にケータイを生活から取り除くのではなく、使い方・モラル・マナーを保持する前に適切に指導することが大切だということ
尾花さん、曾我さんの意見がよかった
知らない情報を得られた
勘違いしていた部分があり、親の認識不足があったと思った
ケータイの実状をよく知ることができた。もっと学習しなくては、と思いました

図 2-23 シンポジウムに参加して、あなたの心境やお考えに変化はありましたか？

コミュニケーションをしっかりとならなければと思いました(家族間)
親がもっと理解して子どもに説明できるようにしていけないといけないと思った
携帯の持たせ方とルール作りの大切さ。携帯に対する知識が深まった
ルールについて、家庭で話し合える環境づくりが必要だと思う。目をかけて、子どもの様子を見る。そしてコミュニケーションをとる工夫をする。親もしっかり勉強して使い方を学ぶ事が大事
簡単に物をあたえてはいけない。与えたなら責任を持つように意識するよう、気持ちをひきしめた思いです
この場に来たことに大きな意味があった。本当にケータイが必要か、ただ与えなくてすめばそれでいいのか。話を聞いて役立った
より正しい情報を知りたいと思った
まずは主人と子どもに話します。そして学校にもちかえりPTAに話します
携帯＝高校生になるまで持たせないと思っていました、それが問題ではなく、少しずつ携帯を持つことのいい面や悪い面を教えていくのが大切なんだと思いました
携帯教室は度々参加しているので、特に変化はありません
現在、子どもが大きくなり直接には関係ないのですが、現在子育て中の子どもの立場になりますと、やはりちゃんとした勉強しておく必要があるなど・・・思いました
子どもに注意する工夫を考えて言おうと思った
今までケータイ・ゲームは持たせなければ大丈夫だと思っていたけど、そうではなくやはりルールが大切、危険性をきちんと話し合う
ロックを外して、アドレスロックに替えます
大人を変えるのは難しいので、子どもをまきこんでいくことが結局は早道なのかなと思いました
近くの子どもたち又知らない親に注意したい
まず自分が勉強しないといけないと感じました
保護者に広めていきたいと思うようになった
保護者がもっと勉強しなければいけないと思いました
子どもとのふれあいをもっと見直すべきと反省しました
ケータイを持つこと 持たなければ、危険ではないということではないという認識。リスクを知らせながら解除法を身につける
もっと子どもと携帯やゲーム機の危険性について話し合わなければならなかったと思った。ゲーム機にも危険があるとは思っていなかった。親の都合で子どもに携帯を持たせましたが、買いつけた時はルールを決めたが、今はルールは守れていません。でもルールは大切であると思いました
自分が携帯等を使用しているその使い方、子ども達への影響を見直そうと思いました
家族のコミュニケーションがやっぱり大切！！
ケータイの使用について、しっかり子どもたちと話し合い、ルール化しておくことが大切だと再認識した
大人の意識改革が必要だということをこれまで以上に感じた。大人の使い方には色々問題がある
親ができる事、はたらきかける事はたくさんあると感じました

図 2-24 シンポジウムに対するご意見を自由にお書きください。

自分にとってあまり意義がなかった。少し期待はずれでした
・コーディネーターの口から、人種差別につながる話はやめた方がいいと思います。(人権教育を受けていなくても、モラル意識が低いからだと思う。)
ありがとうございました
携帯に対する意識が高まった。改めて、携帯の使い方を親子で見直さないといけないと思いました
子どもが小さいうちに知っておきたい内容でした。親の理解(ITに限らず)がとても大切だと感じました。6月、7月頃等行事の少ない時期に開かれれば参加しやすくなるのでは・・・と思います。12月の用事が多い時期は必要を感じていても出にくいです。PC・インターネットの使い方を含め困った時に相談できる窓口があればありがたいと思います
ケータイの対する考え方に間違いないと思った。親もちゃんと勉強していかないと
子ども同席対象も開催してください
携帯には、フィルタリングをかける必要がありますが、大切なのは親子・家族間のフィルタリングをはずしコミュニケーションを深めることだと思います
ずっと前から携帯の話を色々ところで聞く機会があったのですが、その時々、都合が悪く聞く機会がなかったので、今日は聞かせて頂きありがとうございました
PTAの活動に協力して下さる年配の方々は、断固としてケータイは不必要だと・・・持たせている保護者は信じられない・・・とまでおっしゃるのですが、私はそうまでは思っていません。メリットの部分を生かしつつ、危険も認識し、伝えていくことがとても大切だなと感じました。本日はありがとうございました
ありがとうございました。とても勉強になりました
又、やってほしいです
子育てにおいて3間の時間は子どもを育てるにはまず育つのを待つ、時間を共有するという時間があることだと思います
尾花先生のお話とても参考になりました。ありがとうございました。パネルディスカッションお疲れ様でした。それぞれの立場でケータイについて正しい知識・新しい取組を広めていきましょう(携帯インストラクター)
よい機会をありがとうございます
とても有意義な時間でした。ありがとうございました
もりだくさんの情報とても役立ちます。まだ与えていないので、大いに参考になりました
毎日子どもとの会話を大切に、いつまでも仲良く親子でいたいと思いました。自分の携帯の使い方反省しました
引き続きネット犯罪の学習会もお願いします
携帯電話は大変便利で重要な道具なのですが、道具を使うに当たって、ルールが守られていない、コミュニケーションがうまくいかない、礼儀が見られないなど社会的によくない例が見られない面がある
これからも自分が知りたいと思ったら、参加していきたいです
ケータイは使い次第とても便利。ダメだけじゃダメ。まずコミュニケーションが第一！！
第59回日P全広島大会の特1会場で尾花先生のお話を聞かせてもらいましたが、今回はその時の一部を復習させてもらいました。(かくれてやる、指導していない等)後、料金がオーバーした時、おこらずおいつめず、「じゃ～お年玉が減るよ」の話をもう一度聞きたかったです
高学年～中1の頃に、しっかりルール・モラルについて子どもと話し合ってきて、こういうルールが守れたらケータイやゲームを持たせると約束して持たせていなかったけれど、友達の中3にもなるとケータイ、iPod、ゲーム数個、ノートパソコンをすべて又は重複して持っている子が多く持っていない子に貸し出して利用させたりメールアドレスを作ったりしていき、あっという間に広がってしまいました。家族だけでは食い止められない現実が・・・
・まず家庭！！そして少しずつ身の回りから・・・。・きびすぎるルール→まわりに迷惑→よく分かります。携帯だけではないですよ。自分で判断できる人間にならないといけないし、考えられる人になってもらえるよう手伝っていきたい。・少しずつ怪我をしながら・・・その通り！！
1人でも多くの方に意識を持って頂くように努力したい
子どもはさすがに、かくれてルールをやぶる・ウソをつくといった子どもへの悪い印象が強かったように感じた
参加者が余りにも少なかったのが残念でした。色々な場所で(聞きにいける近場)学習会が出来れば良いと思いました
日曜日をお願いします
なんとなくあぶないものになるのではと思っていても、使い方、人とのつながり、きちんとふまえていけば、大丈夫であると、道具として正しく利用すればよい。と思えるようになった
PTAが集まりやすい時期に開催していただきたい
やはり大人から、我々大人が社会の手本に子どもの手本になる事が基本であると思う
いいお話が聞けたと思います。ケータイの問題だけじゃなく、子育て・教育・自分自身のモラル、色々考える良い機会になりました。余談ですが・・・曾我さんのムチャぶりが面白く、それに答える皆さんもすごいと思いました
親が子どもの手本になるようにしたい！！
中身はあまり理解できなかったが、保護者や大人が変わらない限り様々な問題が深化するのではないかと思います
携帯だけではなくこれから子どもが持ちたがるもの、身のまわりのもの全てにおいてよく考えて家族で話し合うことが大事だと感じました
ごめんなさい。途中で退出してしまいました
開催日は土曜日がいいです。児童の人格形成・学力向上に関する内容を望みます